

令和6年度punkarカラ協働展示

会場

松浦武四郎記念館

大黒屋光太夫記念館

石水博物館

三重あらし

Punkar network

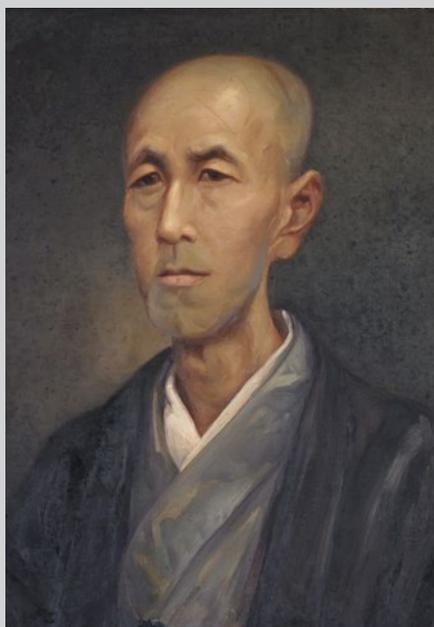


MIE2024

北海道へ

—アイヌ文化と出会った人々

会期 2024. 11.29 金 — 2025. 1.19 日



川喜田石水像(石水博物館蔵)



大黒屋光太夫磯吉画幅(大黒屋光太夫記念館蔵)



アットウシ(樹皮衣)



ボンチタラベ(花ごさ)

熊図 扇面(石水博物館蔵)

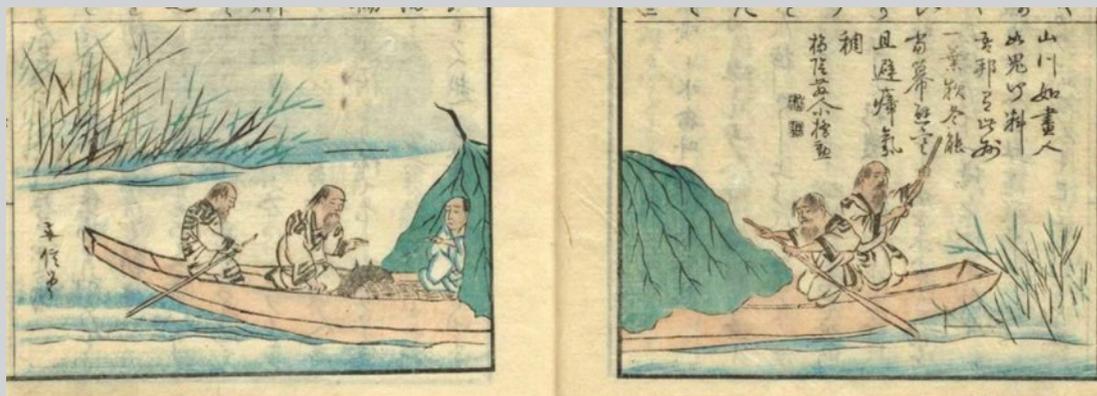
主催：国立アイヌ民族博物館

共催：松浦武四郎記念館

大黒屋光太夫記念館

公益財団法人石水博物館

後援：公益社団法人北海道アイヌ協会



「石狩日誌」(松浦武四郎記念館蔵)



NATIONAL AINU MUSEUM
国立アイヌ民族博物館

北海道の名付け親である松浦武四郎(1818～1888)は現在の松阪市出身で、幕末期に6回にわたり、北海道の調査を行いました。アイヌ民族と交流を深めながら、その生活やアイヌ語の地名などを記録し、多くの著書にまとめました。それらに描かれた絵図には、伊勢市出身の村上島之允(1760～1808)によるアイヌの風俗・習慣を記録した絵画の影響を大きく受けています。また、鈴鹿市白子の船頭だった大黒屋光太夫(1751～1828)は、アリューシャン列島に漂流してからロシアで10年の歳月を過ごし、北海道の根室に帰国して、そこでアイヌの暮らしにも触れました。さらに、津市の豪商である川喜田家は、武四郎の後援者であるとともに、その後も長きにわたりアイヌ文化との関わりを持ち続けました。

本展覧会では、ではこのような18～19世紀に活躍した三重県(伊勢国)出身の人物とアイヌ文化との深い関わりを紹介するほか、アイヌの暮らしのさまざまな道具や、現代の作り手による作品の数々を展示します。

漂流人帰国松前堅之図
(大黒屋光太夫記念館蔵)



イタ(盆)

—アイヌ文化と
出会った人々

北海道へ

三重から

Punkar network



令和6年度
Punkar
コラボ
協働
展示

関連
イベ
ント

松浦武四郎記念館

11月29日(金) 12:00～13:00

オープニングイベント
「松浦武四郎が記した地域のエピソードとその魅力」
内田 裕一(文化庁調査室)

12月8日(日) 10:00～11:00

トークイベント「アイヌの装い(仮)」
北嶋 由紀(国立アイヌ民族博物館室長補佐)

12月8日(日) 14:00～15:00

ワークショップ「自分だけのミニタマサイを作ろう!」

1月12日(日) 10:00～11:30

トークイベント
「松浦武四郎と加賀伝蔵・伝蔵のアイヌ語通辞としての生涯」
石渡 一人氏(別海町郷土資料館学芸員)
深澤 美香(国立アイヌ民族博物館研究員)

1月19日(日) 14:00～15:00

館長トークイベント
佐々木 史郎(国立アイヌ民族博物館館長)
山本 命(松浦武四郎記念館館長)

大黒屋光太夫記念館

12月14日(土) 14:30～16:00

ワークショップ「アイヌ民具にふれてみよう」

12月21日(土) 10:30～12:00

講演会
「大黒屋光太夫がロシアに残した日本書籍」
鈴木建治
(国立アイヌ民族博物館企画展示室室長補佐)

*イベントの詳細・最新情報については
国立アイヌ民族博物館のウェブサイトでご確認ください。



松浦武四郎記念館

幕末に北海道の調査を6度にわたって行い、膨大な調査の記録と詳細な地図を作った松浦武四郎(1818～1888年)。明治維新に北海道の道名、国名、郡名の撰定を行ったことから、「北海道の名付け親」と呼ばれています。松浦武四郎記念館は、武四郎の貴重な資料を後世に残し、その功績を広く伝えるため、平成6年(1994)に開館しました。館蔵資料は、調査の日誌、地図、書簡、絵画などを中心に、調査で持ち帰ったアイヌ民族資料も収蔵し、1,505点の資料が国の重要文化財に指定されています。

〒515-2109 三重県松阪市小野江町383
TEL / 0598-56-6847
開館時間 / 9:00～16:30
休館日 / 月曜日、祝日の翌日、年末年始、
入館料 / 一般360円、6～18歳230円
<https://takeshiro.net>



〈アクセス〉

- 近鉄伊勢中川駅下車、東口からタクシーで7分(平日のみコミュニティバス「たけちゃんハートバス」運行)
- 津駅から三交バス天白行小野江バス停下車、徒歩15分
- 伊勢自動車道久居ICまたは一志嬉野ICから車で各15分

大黒屋光太夫記念館

大黒屋光太夫(1751-1828)は、白子湊の船頭で、遭難してアリューシャン列島に漂着、ロシアを横断し、エカテリーナII世に謁見し、ロシアの使節団と共に根室に帰還しました。ロシアからはじめての帰還者となった彼は、帰国後、多くの政治家や学者に注目され、蘭学の発展に寄与しました。当館は、江戸時代に例外的な海外体験をし、海外情報を日本にもたらした大黒屋光太夫を紹介する場として、平成17年に開館しました。令和7年には開館20周年を迎えます。

〒510-0224 三重県鈴鹿市若松中一丁目1-8
TEL&FAX / 059-385-3797
利用時間 / 見学は10:00～16:00
休館日 / 月曜日、火曜日、第3水曜日(ただし、
月曜が休日の場合は開館)、年末年始
入館料 / 無料



〈アクセス〉

- 近鉄名古屋線 急行利用 伊勢若松駅下車 徒歩15分
- 近鉄名古屋線 特急利用 白子駅下車 タクシー利用10分

公益財団法人石水博物館

当館は、陶芸家として知られる川喜田半泥子により設立された財団を母体とし、伊勢国津に本拠を置き、寛永3(1626)年から続く「江戸店持ちの伊勢商人」であった川喜田久太夫家の旧蔵資料を所蔵、展示しています。半泥子の祖父十四代石水は茶の湯や和歌、本草学などを学び、幼少の頃から友であった松浦武四郎を通じて蝦夷地やアイヌの人々の情報を入手しており、武四郎の書簡や出版物など多くの関連資料が現在石水博物館に伝わっています。

〒514-0821 三重県津市垂水3032番地18
TEL / 059-227-5677
開館時間 / 10:00～17:00(入館は16:30まで)
休館日 / 毎週月曜日(ただし祝日の場合は翌平日)、年末年始
入館料 / 一般500円、学生300円
<https://www.sekisui-museum.or.jp/>



〈アクセス〉

- JR・近鉄津駅東口より三重交通バス(久居駅方面行)にて15分、「青谷口」下車徒歩8分
- 近鉄久居駅西口より三重交通バス(津駅方面行)にて10分、「青谷口」下車徒歩8分
- JR阿漕駅より徒歩12分

Punkar

アイヌ文化でつながる
博物館等ネットワーク(愛称Punkar)とは
国立アイヌ民族博物館は73の会員機関とネット
ワークを独自に形成し、アイヌの歴史・文化に関する
さまざまな事業を行っています。



国立アイヌ民族博物館

アイヌ民族の誇りが尊重される社会をめざし、
多くの人にアイヌの歴史や文化を伝え、アイヌ
文化を未来につなげていくために、北海道白
老町に設立されました。
<https://nam.go.jp/>

